

(仮訳)

第1回TICADV閣僚会合（2014年5月4～5日）
全体会合2「農業，食糧・栄養安全保障」
議長総括

世界銀行及びアフリカ連合委員会（AUC）の共同議長の下，農業，食糧・栄養安全保障に関する会合が行われた。会合は，共同議長の基調講演およびパネリストによる発言に始まり，続いて参加者による議論が行われた。

グレゴール・ビンカート世銀現地事務所代表とアンソニー・モタエ・マルピン・アフリカ連合委員会（AUC）経済委員による基調講演では，農業と農業関連産業を促進させるアフリカの努力と，食糧安全を確保し，アフリカ大陸における栄養失調を終結させる上での課題が取り上げられた。特に，女性や若者の農民数や生産性を高めるための官民による投資が重要視された。この目的を達成し，農業を収益性の高い事業に転換するためには，政治的コミットメント，適切な法律，政策，規制と調整メカニズムが必要とされている。これは2014年のアフリカにおける農業の年の基礎となるテーマである。

江藤日本国農林水産副大臣は，米生産の増加，小規模農家へのビジネスアプローチ，及び家畜，漁業開発における日本の支援を強調した。また，同副大臣は，バリューチェーン・アプローチと責任ある農業投資の重要性を強調した。エシミ・ラザード・カメルーン農業農村開発大臣は，特に天候に適した新技術の実践的な研究，及びその適用の拡大の必要性を強調した。

議論の主要な論点は以下のとおり。

- 農業生産と生産性の改善，及びアグリビジネスの拡大は，大陸の持続的な経済成長と食料安全保障に不可欠である。
- アフリカは，他国の例に習い，農業生産に付加価値を付けるため，革新的な技術力を取り込まなければならない。技術的な知識や職業訓練への投資は，重要な要件であり，TICADの枠組みにおいても主要な目的となるべきである。
- TICADプロセスは，特にアフリカ大陸の農業開発のための効果的なフレ

ームワークであるCAADPを通じたアフリカの努力を支援すべきである。また、南南協力及び三角協力を通じて優れた実践と経験の共有が奨励されるべきである。

- 農業分野における6%の年間成長率を達成するため、TICADプロセスは、農業産業の開発とアグリビジネスの拡大を促進すべきである。同時に、農村の生活を改善し、貧困と栄養不良を克服するため、農民の能力強化を実施すべきである。
- 優れた政策の結果、顕著な進捗が見られており、今後も継続・拡大されるべきである。商業・小規模農家の支援に資するべく、農産物取引における障壁の軽減が留意されるべきである。
- 農業分野の成長の加速化に向けて、アフリカ諸国と開発パートナーは、農業分野への生産的投資を増やし、民間セクターの参加を奨励し、能力強化に焦点を当てるべきである。
- 女性は、農業において重要な役割を果たしており、女性農家及び女性取引業者が直面している特定の制約事項を認識し、対処する必要がある。
- 革新的な資金メカニズムの拡大やリスクの回避は、資金へのアクセスを含め、農業生産者が直面している制約事項の軽減に資する。
- 会合において、アフリカ諸国、日本、その他の開発パートナーは、アフリカ大陸の農業生産性を向上させ、アグリビジネスを強化し、食料安全保障を強化するためのコミットメントを新たに示した。また、農業開発に対する日本の支援が認識され、高く評価された。

(了)